

蕨 広報WARABI 12

2021/令和3年
わらび・854

- 令和3年12月1日発行／発行所・蕨市役所
- 11月1日現在人口：75,522人 前月比 -81人
世帯数：40,217 人口密度：14,779人／km²
- 蕨市の面積 5.11km²

～今月の特集～



- まちを守る消防団……………2
- 障害者支援サークル……………6
- 新型コロナウイルス関連情報…8

～今月の表紙～ 三和公園のイチョウ

市内で紅葉が進むなか、三和公園では、仲よし兄妹が黄金色のじゅうたんで戯れながら、深秋の風を感じていました。





地域の人々のために まちを守る消防団

火災や大規模災害発生時に職場や自宅から現場に駆けつけ、消火・救助活動を行う消防団。全国で約81万人いる消防団員は地元住民で構成され、自分たちのまちを自分たちの手で守るため活動しています。

2篇から5篇までは、蕨の消防団を紹介します。

消

消防団は災害時の消火・救助活動のほか、火災

予防広報や見回り、各種啓発などの活動を行い、私たちのまちを守っています。

消防団員は、ふだんは会社員や自営業など、別に仕事を持つ地域の皆さんです。「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神の下、いざというときには現場に駆けつけ、消防活動を行っています。

日頃から定期的に機材の点検や訓練を行い、災害に備えている消防団。実際に令和元年10月の台風19号のときには、市内を見回り、冠水箇所を報告したり、土のうで家屋の浸水を防いだりと、被害を抑えるため、奮闘していました。

このように地域防災の要となっている消防団ですが、最近全国的に団員が減少しており、蕨でも定員が108人のところ現在の団員は81人と不足しています。自分たちが住むまちを災害から守るため、このたいせつな活動に一人でも多くのかたの力が必要です。参加をお待ちしています。

地域を見回り安全安心を支える

近所の団員さんに誘われ、19歳で入団しました。実家の新聞店で働き始めてからは、配達中に煙が出ているのを見て119番通報したことや、ぼやを見つけて消火器で消火したこともあります。消防団に入り防災の視点でまちを見ていたからこそ気づいて対応できました。こういった経験から、みんなの安全を支えているという意識も身に付いたと思います。

消防団の活動を通じて、地域とより深くつながり、かけがえのない仲間もできました。ぜひ、あなたもいっしょにまちを守る一員になりませんか。



▲災害に備え訓練で指揮をする森さん



▲配達には地域の見回りも兼ねています

■
消防団歴35年
新聞店勤務
■



昭和61年4月入団 第2分団

もり まさひこ
森 雅彦 さん 54歳

地域密着で支える心強い消防団員

団員はふだんは市内外で働いている地元の住民の皆さんです。ここでは、地域で働く二人の声を紹介します。



令和元年10月入団 第6分団

ただ ゆきお
多田 幸雄 さん 41歳

■
消防団歴2年
米穀店店主
■

仲間とともにまちを守る一員に

商工会議所青年部の先輩から消防団に誘われ、生まれも育ちも蔵だったため、地元への恩返しの気持ちで、入団を決めました。入る前は上下関係が厳しいイメージがありましたが、実際はみんなフレンドリーで、すぐになじむことができました。

買い付けなどで遠方において、参集できないときは他の団員がカバーしてくれるので、その分、自分が行けるときは自分がという気持ちになり、支え合いながら活動しています。これからも同じ志を持つ仲間といっしょに、このまちを守っていきたいです。



▲市内で代々続く米屋を経営しています



▲先輩に教わり機材を点検する多田さん

第2分団 団員数14人

中央
北町



経験豊富な人が多いため、新しく入団する人も分からないことがあればなんでも聞ける環境です。安心して入ってきてほしいですね。



こもりや つとむ 分団長
小森谷 勉

第3分団 団員数10人

中央
北町
錦町



団員数は6分団の中でいちばん少ないですが、その分、コミュニケーションを取り、仲間との距離が近いため、チームワークには自信があります。



くりはら よしお 分団長
栗原 良夫

を紹介

市内には6つの分団があり、それぞれ担当地区が割りふられています。ここでは、各分団の皆さんを紹介します。

第5分団 団員数12人

南町



詰所が南町コミュニティ・センターに併設しているため、子ども会のイベントのお手伝いもするなど、地域と関わることの多い分団です。



むらおか のぶよし 分団長
村岡 伸芳

第6分団 団員数15人

中央
南町



先輩がたが作ってきた、輪の中に溶け込みやすい雰囲気があるため、ここ数年で新しく入団した人たちもすぐになじんで、活動しています。



すずき こういち 分団長
鈴木 孝一

Interview



消防本部総務課
しもかわ たけし
下川 岳 主任

消防団は地域防災の中核を担う存在です。大規模な災害が起きた際には、市内全てを消防署のみでカバーすることはできません。そのときに地域の皆さんのいちばん近くで頼りになるのは、地元に住む消防団の皆さんです。

最近は自然災害が増えており、それに合わせて消防団の活動も地震や水害への対応など多様化しています。しかし、特別な技能は必要ありません。実際に消防団員は市内外で働く会社員・自営業者や学生、女性などさまざまです。誰にでも活躍の場があります。

今後起きうる大規模災害に備えるため、消防団の力が重要です。まちを守りたい気持ちがあればどなたでも大歓迎です。興味があるかたは消防本部までご連絡ください。

小学生が描いた防火ポスター展

蕨市消防本部と蕨防火協会が行っている防火ポスター展。市内全7小学校から寄せられた455点のうち、入賞作品を紹介します。

高学年の部



いわきり ゆい
岩切 唯さん
中央東小学校4年

火が消火されてどんどん小さくなっていく様子を表現しています。周りの水しぶきの勢いが伝わるように力を入れて描きました。



さかい だいつき
坂井田 樹生さん
塚越小学校5年



やまぎし そう
山岸 想さん
西小学校4年

低学年の部



こばやし りょうせい
小林 龍正さん
東小学校3年

オリンピックの開会式で見たピクトグラムを使って家族が消火する様子を描きました。習っていない漢字を書くのが難しかったです。



あなざわ かいと
穴沢 海人さん
東小学校2年



つみ せな
堤 聖和さん
東小学校2年

火災に気をつけましょう

空気が乾燥し火事が起こりやすい季節です。火災を起こさないよう火の元をしっかりと確認しましょう。
住宅用火災警報器／全ての住宅に設置（寝室と階段）が義務付けられています。交換目安は10年です。
詳細＝消防本部予防課（☎441・0174）

第1分団 団員数13人

塚越



塚越分署に詰所があるため、施設を使って質の高い訓練ができます。また、女性団員も2人所属しており、男女問わず活躍しています。



むらた けいいち
村田 恵一 分団長

蕨が誇る6分団

第4分団 団員数12人

北町
錦町



訓練や出動のときはもちろん真剣ですが、ふだんは和気あいあいとした雰囲気です。年齢関係なく、きずなを深め、よい信頼関係を築いています。



やまの いとしまさ
山野井 利公 分団長

地域ぐるみで安全安心なまちへ！団員募集

市では消防団員の募集を行っています。活動内容は、火災予防広報や各種指導・啓発、災害発生時などの対応です。皆さんのご連絡をお待ちしております。なお、非常勤特別



職の地方公務員として一定額の団員報酬が支給されます。
対象＝18～54歳の健康で消防・防災活動に意欲のある市民
詳細＝消防本部総務課（☎441・0117）



特集

障害者支援サークル

今月3日から9日までの障害者週間にあわせて、長年、障害者支援を行う3つの団体を紹介します。障害者への理解を深めるきっかけにしませんか。

朗読サークル「草笛」

会員数12人

目が不自由な人に声で寄り添いたい

中央公民館の一室から物語を読む美しい声が響いてきました。声の主は「草笛」の皆さん。昭和53年に創立され、毎月正しい日本語を学んでいます。

そんな皆さんが力を入れる取り組みは「声の広報紙」。視覚障害者のため、広報蔵や市議会だよりを録音し、発送しています(※)。その他、老人

福祉施設の訪問など地域交流も大事にしています。

サークルの現在の課題は録音のデジタル化。パソコンに詳しい人はぜひ連絡してみてください。

活動／例会＝第3月曜日
午後1時半 中央公民館
録音＝総合社会福祉センター 月1、2回(担当制)
会費＝月1,000円 詳細＝
会長・山本(☎442・0883)



(上)テープレコーダーで広報蔵の内容を録音
(右)元NHKアナウンサーによる朗読指導





(上)「ボランティア」を手話で実演 (左)ろう者を手本にして生きた手話を学習

蔵手話サークル

会員数37人

ろう者と聞こえる人を結ぶ懸け橋に

昭和52年に設立し、蔵市聴覚障害者協会のろう者を交えて、手話やろう者の文化を学んでいる蔵手話サークル。手話講習会や小・中学校の手話体験など、手話を広める活動にも協力しています。

手話は、手の動きに、顔の表情や体の動きも伴う表現力が豊かな言語です。今年4月に蔵市手話

言語条例(※)が施行され、子育て中のママなど若い人も増えています。

ろう者と話す世界を一度体験してみたいはいかがでしょうか。

活動=①木曜日 午後7時 中央公民館 ②土曜日 午前10時 東公民館 各月4回 会費=月200円 詳細=わらびネットワークステーション(☎445・7256)

ボランティアセンター

ボランティアの情報提供・相談など 住所・連絡先=錦町3-3-27 ☎433・1915



蔵市における3月末時点の障害者手帳所持者は2894人。障害のある人もない人も笑顔で暮らすまちにするには、皆さんが障害を正しく理解し行動することがたいせつです。

右手を脚に見立てて動かす「歩く」という手話は、両手で行うと「ボランティア」になります。「ボランティア」とは「ともに歩く」ことなのです。

蔵のボランティアセンターでは、21の障害福祉ボランティア団体が登録しており、興味がある人に案内しています。今月3日から9日までは障害者週間。障害のある人とい人が「ともに歩ける」よう、これを機に、自分ができることを考えてみませんか。

ともに歩けるまちへ

点字サークル「あじさい」

会員数25人

どんなものでも読めるようにしたい

「老若男女が楽しく活動しています」と話すのは、創立45周年の「あじさい」代表・高橋さん。同会は、目が見えない・見えにくい人に情報を伝えるため、点訳勉強会を行い、点訳作業を各自行っています。

また、福祉作業所での点字刻印補助や小・中学校の点字教室など、点字や視覚障害への理解を深

める活動にも積極的です。自動点訳やZ o o mなど、新技術を随時導入するのも同会の特徴。雰囲気を知るには一度見学してみるのがお勧めです。

活動=金曜日 月4回 午前10時 南公民館 ※第2土曜日は小学生～高校生の点字教室 会費=月500円 詳細=わらびネットワークステーション(☎445・7256)



(上)西小学校5年生の点字体験 (右)障害者就労支援施設らくらくで点字刻印をサポート



新型コロナウイルス関連情報



＜コロナ後遺症外来＞

倦怠感や息苦しさ、咳、味覚・嗅覚障害などのコロナの後遺症にお悩みの場合は、埼玉県医師会認定の後遺症外来実施医療機関（計7医療機関）へご相談ください。※後遺症の症状が4週間以上続くなどの条件があります。

◆新型コロナワクチン接種事業 1億8,317万円
→ワクチン接種体制を整備し、12月より3回目の接種を開始 ※接種券を順次発送中

● **3回目接種／2回接種を終え、8か月経過した18歳以上の人に実施。**対象者に順次接種券を発送します。なお、蕨市以外で2回接種後に転入した人、海外で2回接種した人は3回目接種券の発行申請が必要です。接種済証の写し、または接種記録書の写しと申請書を蕨市新型コロナワクチン担当へ提出してください。詳しくは市ホームページでご確認を。詳細＝同担当（☎0570・550・443）

● **これから1回目を接種する人へ／接種会場は、蕨市立病院、わらび北町病院、みなと医院、今井病院です。**各医療機関の受付状況や接種時間は、コロナワクチンナビか市コールセンター（☎050・5577・3712）でご確認を。

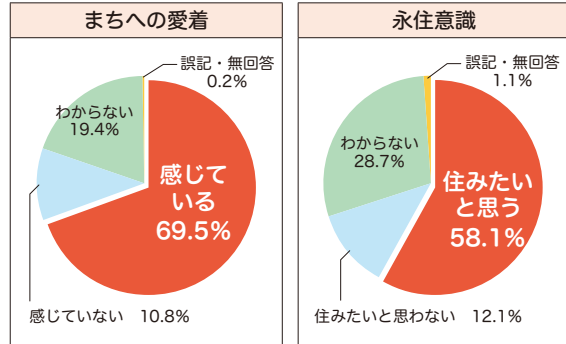


広報WARABI 8



皆さんの声を市政に生かします 市民意識調査の結果まとまる

市民と行政が一体となったまちづくりを進めるため、毎年行っている市民意識調査。その主な調査結果を紹介します。



重点施策の重要度	重点施策の満足度
1位 消防・救急体制	1位 消防・救急体制
2位 防犯対策	2位 上・下水道の整備、雨水対策
3位 防災対策	3位 防災対策
4位 交通安全対策	4位 公園緑地の整備、身近な緑と花の充実
5位 市立病院の充実	5位 コミュニティバスなどの公共交通の充実



(左)市民の命と財産を守るため、消防・救急活動を迅速かつ的確に実施 (右)地域全体で防災対策を推進(演習の様子)

詳細＝政策企画室(☎433・7698) ※結果は市民活動推進室、各公民館、図書館、市ホームページで御覧になれます。

まちに愛着を感じる約7割、優れた利便性に高い評価。今回の対象者は10000人。回収率は45・3%でした。主な項目の結果として、「まちへの愛着」を「感じている」と答えた人は69・5% (左上) 円グラフ)。昨年に続き、約7割という高い結果となり、その理由は、「買い物など生活に便利だから」、「自然災害、都市災害が少なく安全だから」が上位となりました。

また、今後も蔵市に「住みたいと思う」と答えた人は、58・1%。その理由として、環境上では、「住みながら、生活から、生活では、「消費生活が便利だから」が1位でした。いづれの結果から、多くの人が「重要度」の上位は、「消防・救急体制」、「防犯対策」、「防災対策」の順になり、安全安心分野への関心の高さがうかがえます。また、「満足度」においては、1位が同じく「消防・救急体制」。続いて「上・下水道の整備、雨水対策」、「防災対策」の順となりました。市ではこうした調査結果を基に、今後も更に住みよいまちづくりの実現を目指し、各施策の充実を図っていきます。

関心集まる安全安心分野 結果を基に各施策を充実

次に今後の市政の重点施策36項目について、「重要度」と「満足度」の両面からお聞きしました(左上囲み)。

令和3年度市民意識調査

調査期間：8月31日～9月21日
調査内容：
◎まちへの愛着
◎永住意識
◎まちづくり(防災、子育て、高齢期に大切なこと、まちのにぎわいについてなど9分野)
◎重点施策 など全25項目
対象：市内在住の18歳以上の男女1,000人(無作為抽出)
回収率：45.3%(453人)

12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月
5日 クリンワらび市民運動(予定)	3日 第6回議会報告会YouTube配信	28日 映画「さよなら私のクラマー」フ	24日 第8回蔵市立小中学校俳句大会表彰式	27日 命と健康を守る蔵市緊急対応を発表	25日 蔵市新庁舎建設工事起工式	24日 わらび防災大学校開校(3月24日予定)
26日 「映画「さよなら私のクラマー」フ	21日 蔵市総合防災演習(北小学校)	23日 プロシエクト開始	16日 第75回蔵市成年式(2部制)	19日 東京2020オリンピック聖火リレー	16日 田中啓一前市長の名誉市民葬	15日 蔵市電子商品券支給事業実施(10月31日)
24日 蔵市新型コロナウイルス緊急対策第6弾を発表	12日 蔵市環境フォーラム	10日 市民公園大型複合遊具リニューアルオープン	1日 蔵市都市計画マスタープランを策定	18日 日本アンテナ(株)とワクチン接種事業連携協力を締結	6日 東京2020オリンピック聖火リレー	5日 歴史民俗資料館第32回平和祈念展(9月26日)
20日 蔵市新型コロナウイルス緊急対策第6弾を発表	11日 蔵市環境フォーラム	3日 蔵市都市計画マスタープランを策定	30日 中学校体育館の空調設備使用開始(学校体育施設開放事業の利用10月1日)	5日 明治安田生命保険相互会社と包括連携に関する協定を締結	3日 蔵市新庁舎建設工事起工式	2日 蔵市電子商品券支給事業実施(10月31日)
18日 蔵市新型コロナウイルス緊急対策第6弾を発表	3日 蔵市環境フォーラム	2日 蔵市都市計画マスタープランを策定	28日 中学校体育館の空調設備使用開始(学校体育施設開放事業の利用10月1日)	27日 命と健康を守る蔵市緊急対応を発表	26日 蔵市新庁舎建設工事起工式	25日 蔵市電子商品券支給事業実施(10月31日)
17日 蔵市新型コロナウイルス緊急対策第6弾を発表	2日 蔵市環境フォーラム	1日 蔵市都市計画マスタープランを策定	27日 命と健康を守る蔵市緊急対応を発表	26日 蔵市新庁舎建設工事起工式	25日 蔵市電子商品券支給事業実施(10月31日)	24日 わらび防災大学校開校(3月24日予定)

『星落ちて、なお』語る

天才絵師・河鍋曉斎^{かわなべきょうさい}の娘で自らも画家だった暁翠^{きょうすい}。その生涯を描いた澤田瞳子^{さわだとうこ}さんの小説『星落ちて、なお』は第165回直木賞受賞作です。受賞を祝し、澤田さんや暁翠の孫・河鍋楠美^{かわなべくみ}さんなどを招き、10月24日、くるるで講演会を開催。訪れた80人は暁翠の魅力や小説の逸話に耳を傾けていました。



まちの話題

ここでは10月下旬から11月下旬までの話題を紹介します
ビデオマークがついている話題はCATVで放映します

鈴木氏・真彩氏に文化賞

地域文化の向上・発展に貢献した人に贈られる「けやき文化賞」の表彰式が11月3日にくるるで開催。ミュージカル指導者の鈴木由美子氏(写真右)と女優の真彩希帆氏が受賞しました。鈴木氏は子ども劇団を作り市内で公演。真彩氏は同劇団で育ち、宝塚歌劇団で活躍。市PR大使も務めています。

※真彩氏は公演中のため11月14日に贈呈



わらびりんごの蒸しパン

日本一早く実がなるわらびりんごを使った蒸しパンが11月10日、市内全小・中学校と公立保育園で提供されました(写真は南小学校)。地元産の食材を知ってもらおうと、りんごをペースト状にして生地練りこみ蒸しパンに。子どもたちは蕨の味をおいしく味わっていました。



「ハローわらび」12月の番組表

市からのお知らせ・地域の話題などをお送りします

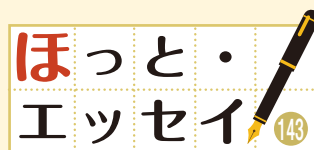
放送時間は、毎日午前9時・正午・午後3時・6時・9時からそれぞれ45分間です。

	12/3(金)～9(木)	10(金)～16(木)	17(金)～23(木)	24(金)～30(木)	31(金)～1/6(木)
00	タウンタウン	市政ガイド 新型コロナウイルスに係る 蕨市の対応について	タウンタウン 南町児童館の 乳幼児クラブ合同 クリスマス会	市政ガイド 新型コロナウイルスに係る 蕨市の対応について	新春美術チャンネル
05	おやこで消防署見学 蕨市総合防災演習	タウンタウンワイド	クリーンわらび市民運動	タウンタウン 移動動物園 in 西小	河鍋暁斎記念美術館 ※過去の放送分の中から 2本分まとめてお届け します。
10	特集・ウィークリープラス	秋を探そう in 城址公園 ひまわり隊の防犯教室	特集・ウィークリープラス	蕨市政なう!	
15	真彩希帆チャリティー トークショー	園芸品評会	地産地消の 取り組みを学ぼう	2021 映像で振り返る 蕨市政この1年	
20	市政ガイド 市民意識調査 結果がまとまる	音楽が響き渡るまち 蕨少年少女合唱団・蕨男声合唱 団・女声合唱団Mion 演奏会	手話を学ぼう (第9回) 曜日・「ら行」編	採れたてスポット 年末年始のお知らせほか	特集・ウィークリープラス インタビュー ～2022年の抱負～
30	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報

「ハローわらび」DVD/放送終了後から貸し出します 無料 詳細・貸し出し場所＝秘書広報課 (☎433・7703)



長引くコロナ禍の地域経済への影響や冬の感染再拡大などが懸念されるため、蕨市では、新たに新型コロナ緊急対策第6弾を取りまとめました。第6弾は3つの柱からなり、1つ目は生活支援・経済対策です。18歳までの子ども1人に10万円を支給する国の事業に合わせて、市独自に、ひとり親世帯等の子ども1人に2万円を上乗せするほか、PayPayと連携したポイント



市民の健康と暮らし、事業者の営業を守り、第6波に備える
新型コロナ緊急対策第6弾

市長 頼高 英雄

市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は2日です。1月は6日です。時間は午後1時～5時を予定しています。
ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へご連絡を。

還元キャンペーンの第2弾、更に、市内事業者が感染対策として、空気清浄機や消毒液などを購入する経費に対し、5万円を助成する予定です。
2つ目は医療・療養者支援対策です。第6波に備え、市立病院で、発熱外来での迅速な検査や抗体カクテル療法などの早期治療、受入病床の拡充を行うほか、市として、自宅療養者へのパルスオキシメーター貸し出しや食料品・生活用品の提供などを行います。
3つ目は3回目のワクチン接種です。2回目から原則として8か月経過した方を対象に、今月1日から開始します。
一日も早く、豊かな日常を取り戻すため、引き続き、全力を尽くしてまいります。



真彩さんが地元蕨に凱旋

元宝塚歌劇団・雪組トップ娘役で、女優の真彩希帆さん(写真右)のチャリティートークショーが11月14日、市民会館で開催されました。宝塚を目指していた子どもの頃の話や歌声を披露するなど、圧倒的な存在感で訪れた320人を魅了した真彩さん。収益は子どもたちのためにと市に寄附されました。

葵子ちゃん（4歳10か月）

虹子ちゃん（1歳2か月）

須賀 啓一郎さん

理恵さんの 三女・四女

南町4丁目



が家のアイドル

「天真爛漫な葵子と何事にも興味津々な虹子は仲よし4姉妹の三女と四女。虹子が歩けるようになると、葵子と手をつないで、よく公園や幼稚園まで散歩しています。最近私が家事で忙しいときに虹子のめんどろをみるなど、葵子もお姉さんらしい一面を見せるようになったんです。これからも姉妹で助け合いながら元気に育ってほしいですね」と、母親の理恵さん。



2年ぶりの
総合防災演習

熱中症対策や新型コロナ感染防止のため例年と時期をずらし、11月21日に北小学校で総合防災演習を実施しました。市民による初期消火や応急給水栓の設置訓練のほか、消防団による一斉放水などを実施。参加した513人は、災害への対応を再確認しました。



「県南地域にもがん患者の輪を」と見山さん

輝いてます

ひと

キャンサーフラ 講師
みやま まきこ
見山 磨希子 さん

がん患者に寄り添うフラを

「人生に輝きを取り戻してほしいです」と語るのは、がん患者のためのフラダンス、「キャンサーフラ」の講師として活動している見山磨希子さん（56歳・中央5丁目）です。長くつらい闘病生活を送るかたがたの心と体を元気にするため、日々奮闘しています。見山さん自身が乳がんを患ったのは10年前。手術や抗がん剤治療により、脱毛や吐き気といった副作用や上がらなくなった腕のリハビリが続きました。更に1年後には腕がむくんでいくリンパ浮腫に。不安で押し潰されそうになか、まちなかでふと目にしたのが、現キャンサーフラジャパン代表の草野朋子さんが大宮で開

講する教室の案内でした。少しでも気分が晴れたらと始めてみると、仲間たちと衣装を着て音楽に合わせて踊るなかで、自然と笑顔があふれてきました。楽しく続けることで、徐々に腕も上がるようになり、リンパ液の流れがよくなったのか、気づくとむくみの悪化も抑えられていたのです。いきいきと踊ることので不安が薄らいでいった見山さん。「今度は私が悩んでいる人の力に」との思いが芽生え、アシスタントを経て7年後に講師に。レッスンでは椅子に座って踊るなど一人ひとりの体調に合わせて練習を心がけるとともに、休憩中には生徒との交流を欠かしません。脱毛の悩みを相談されたときは、蔵市在住の再現美容師、毛内英克さんを紹介するなど、同じ境遇にある者として、気持ちのケアもたいせつにしています。来月24日からは、市民体育館で教室を開講し（お知らせ版2ページ）、「一人でも多くの人にキャンサーフラを伝えたい」という夢の第一歩を踏み出します。病と向き合いながら明るく前向きに生きるその姿は、きっとがん患者の心に再び希望の光をともしることでしょう。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.67—

明治7年（1874）、晩斎が十二月の風物を一気呵成に描いた十二幅揃いの席画のうち、十二月を描いた作品です。一年の邪気を払うために豆を撒いて鬼を追い払う「追儺式」が描かれています。「追儺式」は大晦日に行われる宮中行事でした。それが後に民間の節分と結びつき、立春の前日に豆を撒く行事となったと考えられています。小槌を福女から盗み、顔を隠して逃げ出す鬼がなんともユーモラスな作品です。

河鍋晩斎記念美術館 開催中（12月22日まで）

「晩斎が描いた『忠臣蔵』と芝居絵」展
同時開催 「『晩斎百鬼画談』の世界」展

開館＝午前10時～午後4時 ところ＝南町4-36-4

休館＝火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始

入館料＝一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円
65歳以上500円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳細＝同館（☎441-9780）



詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください



yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年（1831）
～明治22年（1889）



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

晩斎筆「月次風俗図 十二月 福女豆撒き図」
明治7年 紙本墨画淡彩 軸装